

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2275100382		
法人名	有限会社ケアサポート・豊田		
事業所名	グループホームすきっぷ		
所在地 (電話番号)	焼津市保福島1251番地	(電話) 054-620-9335	

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年12月5日		

【情報提供票より】(20年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	7人, 非常勤 10人, 常勤換算 7.4 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢 平均	82.5 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青島北クリニック ユウ歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、管理者が焼津で初めて作ったグループホームである。利用者の機能低下を防ぐため、レクリエーションを兼ねたリハビリを行ったり、食堂や居室への移動は、時間がかかっても、自力で歩くように促しながら、職員は安全のための見守り支援を行うようにしている。管理者は、利用者にとって、より良い介護を実践するための独自の理念を作り上げており、職員も管理者の熱い思いを充分理解し、利用者の生活を守り、支え合いながらサービス提供に取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>同業者との交流については、研修等で顔を合わせた時に、情報交換を行っているが、日々の介護を第一に考えているため、積極的な交流には取り組めていない状況である。重度化や終末期に向けた取り組みについては、入所前から本人・家族と話し合っており、今後もかかりつけ医等と連携をとりながら、方針を共有して取り組んでいきたいと考えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は評価の意義を十分に理解しており、結果については真摯に受け止め、全職員で話し合い、課題を共有し、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域組織の役員や民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員などの参加により、活動や利用者の近況、防災訓練の報告等を行っている。運営推進会議の意義や役割を、繰り返し説明し、参加者からの率直な意見を出してもらうことにより、サービスの向上つなげることを意識して議題や進め方を工夫している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「すきっぷだより」を発行し、一人ひとりの写真を添えて、利用料を受け取る際に、家族に配布して話を聞く機会を持つようにしている。管理者は、家族の介護負担を充分理解しており、家族から何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。また「目安箱」を設置し、寄せられた意見や苦情は、職員で話し合い、改善に取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。管理者が自治会の役員になっていることで、近隣や地域との連携があり、協力体制も整っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、地域に馴染みながらその人らしく暮らせるように独自の理念(利用者や働く仲間の幸せを常に考える、地域に無くてはならない施設となる、常に学習を忘れず仕事に励む等)を作り実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念を職員と共有するために、常に職員が携帯できるようにし、意識して実践できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事(祭等)に積極的に参加したり、ホームの行事に、地域住民を招くなど交流に努めている。また、中学生の職業体験なども受け入れ、利用者との交流の機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は、評価の意義を充分理解し、外部評価の結果は謙虚に受け止め、職員間で話し合うことで課題を共有化し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度、自治会長・民生委員・行政職員・地域包括支援センター職員・利用者家族等の参加を得て、開催している。ホーム側からは日常生活の報告や行事の説明等を行い、参加者からは認知症についての質問などが出たり、活発な意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設準備の段階から市介護福祉課に相談に乗ってもらっており、介護サービスで生じる疑問や課題の解決にも協力してもらって関係作りができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「すきっぷだより」を発行し、一人ひとりのベストショットの写真を添えて、家族に配布している。金銭管理は、個別に小遣い帳をつけ、月に一度、利用料を受け取る際に、家族に報告・説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、話しやすい雰囲気でお迎えしている。また「目安箱」を設置し、寄せられた内容については、職員全員で解決方法を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は良い。利用者のために、職員の異動や離職をできるだけ抑える努力をしているが、やむを得ず変わる場合は、利用者には繰り返し説明し、理解してもらえるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員一人ひとりに応じて必要な研修を受けることができるように調整している。研修後は、職員全員で情報を共有できるようミーティングの機会を作って、資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際、他事業所の職員と情報交換を行っている。	○	限られた時間の中で、積極的な交流も難しいと思われるが、職員の相互訪問など、できることから取り組み、ネットワーク作りへつなげられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の申し込みがあれば、自宅を訪問して話をうかがっている。その後、本人・家族と一緒に施設を見学していただき、納得した上で、入所につなげている。また、お試し入所を実施し、馴染みながらのサービス利用に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、利用者の持てる力を活かし、食事の片づけや食器洗い等を行って行っている。職員は、利用者と共に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共有し、利用者の経験から学ぶことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に、本人・家族の希望を聞いたり、これまでの生活歴や趣味、嗜好等の情報を集め、また、センター方式のアセスメントを行い、本人の思いや希望に添えるよう職員間で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、アセスメントから課題を明確にし、本人・家族の要望を聞き、それを基に、職員間で意見を出し合って介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月で見直し、評価を行っている。変更の必要があれば、ケース会議を開き、職員間で検討し変更している。家族には説明を行い承諾をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望を第一に考え、できるだけそれに応えられるよう支援している。病院受診は、原則家族にお願いしているが、必要時には職員が付き添い、受診している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は2週間に一度、往診を実施している。また、緊急時の往診等24時間体制で連絡が取れるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から利用者・家族、かかりつけ医と共に、方針や体制について話し合っている。実際にターミナルケアまでに至ったことは無いが、今後も関係者間で、話し合いを重ね、方針を共有していきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各部屋に表札が掛けられ、プライバシーを守りながら、利用者一人ひとりの誇りを尊重する対応を行っている。書類等の管理も、秘密保持の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の一人ひとりのペースを大事にしている。趣味の三味線を弾いたり、縫い物をしたり、無理強いすることなく、利用者が本人らしく生きていくための支援がさりげなく行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調査員が訪問した日の昼食はぶり大根だったが、ぶりを一匹調理するのに大変だった話で、利用者も職員も盛り上がっていた。旬の材料を使い、利用者の作った野菜が食卓に上り、職員も一緒に和やかに食事をしている。準備や片付けも、一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏は毎日、冬は一日置きに、午後2時過ぎから就寝前まで利用者の好みや希望によって対応している。風呂のない日は足浴を行っている。プライバシーを尊重しながら、危険を回避できるよう、さりげない声掛けをして、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、掃除、洗濯干し、野菜作り、買い物等、個々の生活歴を尊重して、役割に自信がもてるよう支援している。皆で集まってリハビリ体操等、楽しみながら取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って買い物に出かけたり、天気の良い日は裏にある土手に散歩に行く等、積極的に外出の機会が持てるように職員同士連携を取って、対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室に鍵を掛けていない。職員が利用者の居場所の確認をしながら見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行っている。県下一斉の防災訓練にも参加して、指定された避難場所への避難を行っている。また、近所に協力依頼の声掛けを行っている。	○	運営推進会議において、災害時の安全確保について確認しているので、地域との相互協力について、具体的な検討に取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が、利用者の希望を聞きながら献立を作成している。季節のものを取り入れ、食材のバランスも工夫している。バイタルチェック表で摂取量をチェックし、水分補給は、食事の際だけでなく、こまめに行うよう注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間には、大きな窓が対面にあり、自然な光が取り入れられている。廊下にはソファを複数配置し、利用者が気に入った場所でゆっくりできるようにしたり、季節の草花を飾り、居心地のよい空間作りを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、これまでに愛用していたもの、使い慣れたものを利用者家族に用意してもらっている。生活に必要なものがある時は、一緒に買い物に出かけ、好みのものを購入するなど、一人ひとり個性的な居室作りを支援している。		